

# 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す 学生による「絵本紹介」の試み

高原 佳江

## Introductions to Picture Books Made by Students Striving to Become Teachers at the Nursery, Kindergarten or Elementary School Levels

TAKAHARA Yoshie

**Abstract:** Introductions to picture books made by students striving to become teachers at the nursery, kindergarten or elementary school levels will form the basis of this paper. The three components covered here will be a deeper understanding of picture books; an expression of picture books in easy-to-understand terms and illustrations, and a selection of child-appropriate picture books. Questionnaires were also employed. It is hoped that a deeper understanding and greater interest in this area will result.

**Key Words:** picture book/introductions to picture books/"Konan Kosodate Hiroba"/children's library/students striving to become teachers at the nursery, kindergarten or elementary school levels

**要旨：**本稿の目的は、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す学生による「絵本紹介」の試みを報告し、現時点での成果と今後の課題を明らかにすることである。学生が子ども図書室で絵本を読み、甲南子育てひろばのおたよりに掲載される「絵本紹介」を作成する過程をまとめ、完成した「絵本紹介」とアンケート結果を分析し考察した。現時点での成果は、学生のお大半が、絵本について理解を深めることができたことに加えて、絵本の内容を自分たちの言葉と絵で他人にわかるように表現する力と絵本の主な読み手である子どもを意識して絵本を選ぶ力を身に付けたことである。一方で、今後の主な課題は、事例を積み重ねてさらに「絵本紹介」の意義を検討することである。

**キーワード：**絵本／絵本紹介／甲南子育てひろば／子ども図書室／保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す学生

### 1. 問題と目的

#### (1) 現場と法令にみる絵本の活用

絵本は、保育や幼稚園教育、さらには小学校教育の現場において、日常的に使用される児童文化財の1つである。絵本の読み聞かせが行われているほか、絵本図書室や絵本コーナーが設置されたり、絵本の貸し出しが行われたりしている。また、絵画制作の題材として、あるいは行事への導入として、絵本が用いられることもある。

一方で、法令に注目すると、保育所保育指針、幼稚園教育要領、および幼保連携型認定こども園教育・保育要領において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示され、このうち「言葉による伝え合い」について「保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。」(保育所保育指針、平成29年3月告示)と記載されている。保育所と幼稚園と幼保連携型認定こども園にお

いては、子どもが言葉を豊かにし、言葉で自分の考えなどを表現したり、相手の考えなどを聞いたりすることが大切にされており、そこで絵本の活用が示されている。

さらに、小学校学習指導要領において各教科の目標と内容が示されるが、このうち「国語」の「第1学年及び第2学年」の内容の中で「読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。」「読み聞かせを聞いたり物語などを讀んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」(小学校学習指導要領、平成29年3月告示)と記載されている。小学校低学年の国語では、読書に親しむことに重点が置かれ、また、文章を読み聞かせてもらうことなどを基にした言語活動が例示されている。ここでいう「いろいろな本」の1つ、また「読み聞かせ」などで取り上げられる文章の1つは絵本であり(小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編、平成29年7月)、小学校低学年の国語の指導においては絵本の活用が有効であると考えられていることがわかる。

現場、および法令から、保育や幼稚園教育、さらには小学校教育において絵本が実際に活用されていること、また、絵本が活用されることが期待されていることがうかがえる。絵本が活用されるためには、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭は絵本について詳しく知っている必要がある、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す学生も絵本について知っていることが望ましいといえよう。しかしながら、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指している学生に絵本についてどのくらい知っていると思うかを質問すると、とりわけ1,2年生においては「ほとんど知らない」「あまり知らない」と回答する学生が多い。そのように思う理由としては、「題名を思い出せない」「内容をよく覚えていない」「読んでこなかった」などが聞かれる。筆者は、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す学生が絵本について理解を深めることを目的とする試みを行うことが必要であると考えた。

## (2) 絵本を取り上げた授業についての先行研究

保育者・教員養成校における授業の中で絵本が取り上げられることは少なからずあり、絵本を取り上げた授業についての研究や報告は多数存在する。中でも、絵本の読み聞かせに関するものが多い。ほかには、絵本制作に関するもの<sup>2</sup>、絵本ノートの作成に関するもの<sup>3</sup>、学生同士の絵本の読み合いに関するもの<sup>4</sup>がある。

このような研究や報告の中で、皆川晶は、保育を学ぶ学生が多く絵本に触れるために絵本を100冊読むことを目標として絵本ノートの作成を実施し、その成果と課題を考察して、絵本を100冊読むことに重点を置き、深く読むことができない学生がおり、その一方で読んだ絵本の本数は少ないが、丁寧に読んだ学生もいたと述べている<sup>5</sup>。多くの絵本を読むことと絵本を丁寧に読むことはどちらも大切であり、両方を行うことが、筆者が必要であると考え絵本について理解を深めることを目的とする試みにおいては重要である。また、読んだ絵本について、絵本ノートの作成のように自分自身のために書きとめるよりも誰かのために書く方が、絵本について理解を深めることを目的とする試みにおいては有効であると筆者は考えた。

## (3) 本稿の目的

今回は、ある授業において、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す学生が絵本について理解を深めることを目的とし、この目的を達成するためにできるだけ多くの絵本を丁寧に読み、「絵本紹介」を作成する試みを行うこととした。

本稿では、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す学生による「絵本紹介」の試みを報告し、現時点での成果と今後の課題を明らかにすることを目的とする。

# 2. 方 法

## (1) 対象授業

甲南女子大学人間科学部総合子ども学科1年生対象の必修科目「総合子ども学基礎演習Ⅰ」のうち、2019年度前期(2019年4月～7月)開講の、筆者のクラスである。「総合子ども学基礎演習Ⅰ」は、複数の教員が担当し、各担当教員の専門性を生かしながら少人数の演習形式で実施するものである。

今回の試みは、授業回数全15回のうち12回を使って行うこととした。履修者数は16名であり、いずれも保育士・幼稚園教諭・小学校教諭のうち2つの資格の取得を目指して学んでいる。履修者全員から、実践報告におい

て、個人が特定されないようにした上で、授業における試みやアンケート結果を掲載することへの同意が得られた。

## (2) 「絵本紹介」の実践の手順

今回の試みは、3つの段階から構成された。

### ①第1段階（第1回～第3回，2019年4月）

絵本について基本的なことを学ぶ時間とした。複数の絵本の実物を手に取って見て、視覚的に理解を深めることができるようにしながら、絵本という児童文化財の特徴、絵本の歴史（日本・世界）、絵本の種類を、筆者が学生に向けて概説した。

### ②第2段階（第4回～第10回，2019年5月～6月）

絵本を読み、「絵本紹介」を作成する時間とした。この作業は、16名の学生を2人、あるいは3人のグループに分け、7つのグループをつくって行った。その理由は、第1に、個人で行うよりもグループで行う方が手に取る絵本の数が多くなり、自分では手に取らないであろう絵本を読む機会を得ることができると考えたためである。第2に、グループで絵本について意見や感想を交換しながら取り組むことによって、1冊の絵本についての個人の理解がより一層深まると考えたためである。

約4,300冊の絵本を所蔵する、甲南女子大学人間科学部総合子ども学科コモンルーム併設の子ども図書室において、絵本を読むことを実施した。ここでいう「絵本を読む」とことは、絵本の文字や文章を見るだけでなく、絵本の絵を見る、さらに絵本を自分の手で持つ、触る、ページをめくる、匂いを嗅ぐなどして絵本の内容を理解することを意味する。また、「絵本を読む」方法には、個人で黙読するという方法だけでなく、グループのメンバーと一緒に声に出して読み、耳から入ってくる音を聞くという方法も含まれる。

次に、「絵本紹介」を作成した。各グループで、1人ずつ、実際に読んだ絵本の中から「絵本紹介」において紹介したいと思った絵本を数冊提示し、それらの絵本の内容や紹介したいと思った理由を中心に、絵本に込められている作者の思い、文章と絵の背後に埋められているメッセージ、どのような子どもが読むことが望ましいと考えるかなどについて説明した。その後、グループ内で提示されたすべての絵本について話し合い、紹介する絵本を決めた。

基本的に、2人のグループは2つ以上、3人のグループは3つ以上の「絵本紹介」を完成させることとした。「絵本紹介」を1つ完成させた後に次の絵本を選ぶか、紹介する絵本をすべて決めてから「絵本紹介」をまとめて作成するか、いずれの手順を踏むかは、各グループに判断させた。

完成した「絵本紹介」は、甲南女子大学甲南子育てひろば<sup>6</sup>が毎月発行している『おたより・ほけっと』に「おすすめ絵本」という見出しで2つずつ掲載されている（2019年9月末時点で掲載中である）。「絵本紹介」がはじめて掲載されたのは、『おたより・ほけっと』第82号（2019年6月号，2019年5月30日発行）においてであった。第82号が発行された時点で、その号に掲載された2つの「絵本紹介」を学生と共有し、改善すべき点などについて話し合い、その後の「絵本紹介」の作成に生かした。

#### 〈「絵本紹介」の構成〉

「絵本紹介」は、a. 題名、b. 作者、c. 出版社、d. 出版年、e. 絵本のサイズ、f. あらすじ、g. おすすめの理由、h. 印象に残った場面の絵の8つの要素から構成された。このうち「e. 絵本のサイズ」については、学生が日頃意識していないようであったが、絵本を選ぶ際に影響していること、また、絵本の印象を決める一端を担っていることを意識する契機となるように構成要素の1つとした。「h. 印象に残った場面の絵」は、本文のみならず、表紙、扉絵などからも選ぶことができることとした。なお、今回は、対象年齢・月齢は構成要素に加えなかった。その理由は、子どもの発達には個人差が大きいこと、また、甲南子育てひろばを利用する子どもは0歳から3歳までであるがその兄弟が絵本を読む際の参考にされる可能性があるためである。

絵本1冊あたり、1枚のA4用紙を横向きで使い、これらの8つの要素を書くことで統一したが、各要素の配置は各グループで工夫させた。また、彩色については、色鉛筆、水彩色鉛筆、クレヨン、パステル、水性ペン、水彩絵の具、アクリル絵の具を用意し、紹介することに決めた絵本の内容や雰囲気が最もよく伝わるものを使って施すようにした。

## ③第3段階(第11回～第12回, 2019年6月)

振り返りの時間とした。主にこの時点で発行されていた『おたより・ほけっと』に掲載された「絵本紹介」をすべて共有し、意見や感想を交換することを通して、この授業でこれまで行ってきたことを確認し、以降の絵本の活用へと繋げていけるようにした。

## (3) アンケート

第3段階のうち第12回の後半で、学生にアンケートを実施した。このアンケートは、「絵本紹介」の試みの効果について、学生の意識の状況や変化を把握するためのものであった。回答方式は、2つの選択肢から単一の回答を選択する選択式、および記述式とした。質問項目、および回答方式は、以下の通りである。

- I. 「絵本紹介」の試みを行ってよかったですか。(選択式)
- II. I. の理由を書いてください。(記述式)
- III. 「絵本紹介」を作成する際に気を付けたことを書いてください。(記述式)
- IV. 「絵本紹介」が『おたより・ほけっと』に掲載され、甲南子育てひろばの利用者に読んでもらったことはよい経験となりましたか。(選択式)

また、2019年8月1日から9月30日まで、「絵本紹介」が「おすすめ絵本」という見出しで掲載されている『おたより・ほけっと』の読者、すなわち甲南子育てひろばを利用する保護者にアンケートを実施した。このアンケートは、「絵本紹介」の試みへの評価について、保護者の反応を把握し、この試みを多面的かつ客観的にとらえるためのものであった。回答方式は、2つ、あるいは3つの選択肢から単一、あるいは複数の回答を選択する選択式、および記述式とした。質問項目、および回答方式は、以下の通りである。

- i. 「おすすめ絵本」は、絵本を選ぶ際に参考になりますか。(選択式)
- ii. i. のように思われる理由は何ですか。(選択式)
- iii. 「おすすめ絵本」についてご意見があればお聞かせください。(記述式)

## 3. 結 果

## (1) 完成した「絵本紹介」にみる学生の学び

## ①「絵本紹介」において紹介された絵本

「絵本紹介」において紹介された絵本15冊を、絵本の題名の五十音順に整理すると、表1のようになる。

表1 「絵本紹介」において紹介された絵本

	題名	作者	出版社	出版年
1	アンパンマンのサンタクロース	やなせたかし作・絵	フレーベル館	1981
2	うみキリン	あきやまただし作・絵	金の星社	1996
3	うんこ!	サトシン作 西村敏雄絵	文溪堂	2010
4	おばけのてんぷら	せなけいこ作・絵	ポプラ社	1976
5	おばけパーティ	ジャック・デュケノワ作 おおさわあきら訳	ほるぷ出版	1995
6	おふろで じゃぶじゃぶ	フィリス・ゲイシャイトー文 デイヴィッド・ウォーカー絵 福本友美子訳	岩崎書店	2014
7	かえってきた へんしんトンネル	あきやまただし作・絵	金の星社	2014
8	がたんごとん がたんごとん ざぶんざぶん	安西水丸作	福音館書店	2012
9	くれよんのくろくん	なかやみわ作・絵	童心社	2001
10	こんとあき	林明子作	福音館書店	1989

11	さいごのこいぬ	フランク・アシュ文・絵 ほしかわなつよ訳	童話館出版	2005
12	しょうぼうじどうしゃじふた	渡辺茂男作 山本忠敬絵	福音館書店	1966
13	ちびゴリラのちびちび	ルース・ボーンスタイン作 いわたまみ訳	ほるぷ出版	1978
14	どんぐりむらのどんぐりえん	なかやみわ作	学研教育出版	2013
15	にじいろのしまうま	こやま峰子作 やなせたかし絵	金の星社	1996

「絵本紹介」において紹介された絵本が7つのグループで重なることはなかった。作者に注目すると、「やなせたかし」「あきやまだし」「なかやみわ」の重なりが2冊ずつみられ、出版社に注目すると、「金の星社」「福音館書店」の重なりが3冊ずつみられ、「ほるぷ出版」の重なりが2冊みられた。出版年については、1960年代が1冊、1970年代が2冊、1980年代が2冊、1990年代が3冊、2000年代が2冊、2010年代が5冊あった。さらに、絵本の種類について、第1段階において昔話・民話の絵本、物語の絵本、知識・科学の絵本、赤ちゃん絵本、文字なし絵本、写真絵本、しかけ絵本、言葉・詩の絵本、バリアフリー絵本の9つに分けて説明したため<sup>7)</sup>、それに沿って考えると、『かえってきた へんしんトンネル』は言葉・詩の絵本、『がたんごとん がたんごとん ざぶんざぶん』は赤ちゃん絵本、そのほかの13冊の絵本は物語の絵本であった。絵本の題名、作者、出版社、出版年においては、一部に重なりがみられたのみで大きな偏りはみられなかったが、絵本の種類においては、大きな偏りがみられた。



図1 『おたより・ぽけっと』に掲載された「絵本紹介」（『おたより・ぽけっと』第82, 83, 84, 85, 86号より）

## ②『おたより・ぽけっと』に掲載された「絵本紹介」

2019年9月末時点で『おたより・ぽけっと』に「おすすめ絵本」という見出しで掲載された「絵本紹介」を図1に示す。

図1より、第1に、「h. 印象に残った場面の絵」が効果的に描かれており、一目で絵本の内容や雰囲気が伝わるようになっていることが読み取れる。第2に、「a. 題名」がとりわけ大きな字で書かれており、何という題名の絵本かがわかりやすい。第3に、「f. あらすじ」が絵本の内容とその面白さが伝わるように、しかし、物語上の結末やしかけなどの重要な部分を暴露することのないように注意して言葉を選んで簡潔にまとめられている上、「いつかきみも、うみキリンにあえるかもしれないよ。」「それからおばけとうさ子はどうなるのでしょうか?」「おばけがごはんを食べるとどうなるの?」というように、「絵本紹介」の読者に語りかけるように書かれている。第4に、「g. おすすめの理由」が「子どもの興味をひきだす絵本」「お風呂が大好きなお子様も、苦手なお子様も」「親子でワクワクしながら楽しめる」「これから入園する子どもがワクワクするような絵本」という具合に、子どもの特性や子どもが絵本を読む具体的な場面、親子で絵本を共有する様子を意識して書かれている。また、「文章が少なく、「がたんごとん がたんごとん」というフレーズが繰り返されていて」「大きくて見やすい絵にクレヨンで塗ったような愛着のある色づかい」「絵が「アンパンマン」と一緒」というように、絵本の言葉のリズム、絵の描き方や画材や色遣い、あるいはほかの絵本との関係に言及する記述がみられた。

## (2)「絵本紹介」の試みの効果

## ①「絵本紹介」の試み全体

学生に実施したアンケートにおいて、「Ⅰ.「絵本紹介」の試みを行ってよかったですか。」と質問したところ、学生全員が「よかったです」と回答した。

また、「Ⅱ. Ⅰ. の理由を書いてください。」という項目において、「絵本紹介」の試みを行ってよかった理由を学生に自由に記述させた。学生による記述を分類し、表2にまとめる。

表2 「絵本紹介」の試みを行ってよかった理由

分類	学生による記述
多様な絵本を知る	色々な絵本があることを学ぶことができた 色々な絵本を知るよい機会になった 色々な絵本に触れることができてよかった 絵本をたくさん見ることができた 知らない、面白い絵本がいっぱいあった
絵本を詳しく知る	絵本を詳しく知るきっかけになった 子ども向けの絵本についてよく知ることができた
両方	知らない絵本をたくさん知ることができたし、絵本の内容をより知ることができた 幼稚園教諭になったとき、子どもに読みたい絵本がたくさん増え、詳しくなった
その他	好きな絵本を紹介することができた 絵を描いたり、好きな絵本を紹介したりすることができて楽しかった みんなで楽しく紹介することができた

学生が、主に多様な絵本を知ることができた、あるいは絵本を詳しく知ることができた、あるいはその両方であったため、「絵本紹介」の試みを行ってよかったと考えていることがわかる。このうち「多様な絵本を知る」には、絵本がたくさんあることを知るだけでなく、それぞれが異なっていることを認めるという意味も含まれていることがうかがえる。また、絵本の主な読み手である子どもや、自分が幼稚園教諭になったときに子どもに絵本を読むことを意識して絵本と向き合った学生がいたことが読み取れる。

## ②「絵本紹介」を作成する際に気を付けたこと

「Ⅲ.「絵本紹介」を作成する際に気を付けたことを書いてください。」という項目を設けて、学生に自由に記述させた。学生による記述を分類し、表3にまとめる。

表3 「絵本紹介」を作成する際に気を付けたこと

分類	学生による記述
文字や文章	文字を大きく書いたり、読みたくなるようなあらすじを書く
絵	まず見たいと思えるような絵を描く 文字だけでなく絵を取り入れる 興味がわくような絵を描いた
文字や文章と絵の両方	絵と簡単な文章だけで魅力が伝わるようにした 絵本のかわいさや重要人物を絵で表して伝えたり、あらすじを読んで続きが気になるように考えた 見やすい文字で、背景に絵を描くつもりで、大きく書く カラフルにして見た目をよくした
絵本の魅力を伝えること	面白さや楽しさを伝えるようにした この絵本を読みたいと思えるような紹介をした
読者が読むこと	お母さんに見てもらいやすいように字や色を工夫した お母さんに手にとってもらえるようにインパクトの強い絵本やわかりやすい絵本を選ぶ わかりやすかった 丁寧にかけた ネタばれしないように気を付けた

学生が、とりわけ文字や文章、絵、文字や文章と絵の両方、あるいは、絵本の魅力を伝えること、母親を中心とする読者が読むことに気を付けて、「絵本紹介」を作成したことがうかがえる。文字や文章と絵の両方について、彩色に注意を払った学生もいた。

### ③甲南子育てひろばの利用者に読んでもらうという経験

「IV. 「絵本紹介」が『おたより・ぼけっと』に掲載され、甲南子育てひろばの利用者に読んでもらったことはよい経験となりましたか。」と質問したところ、学生全員が「よい経験となった」と回答した。

## (3) 「絵本紹介」の試みへの評価

甲南子育てひろばを利用する保護者に実施したアンケートの有効回答数は16であった。

### ①「おすすめ絵本」の参考度

「i. 「おすすめ絵本」は、絵本を選ぶ際に参考になりますか。」という質問を、3つの選択肢をつくって行った。回答者の人数は、表4のようにまとめられる。なお、複数回答をした回答者が1名いた。

表4 「おすすめ絵本」は絵本を選ぶ際に参考になるか

選択肢	回答者の人数
とても参考になる	13
まあまあ参考になる	4
参考にならない	0

また、「ii. i. のように思われる理由は何ですか。」という項目において、「おすすめ絵本」が絵本を選ぶ際に参考になる理由を、「とても参考になる」については3つ、「まあまあ参考になる」については2つの選択肢をつくって質問した。回答者の人数は、表5のようにまとめられる。

表5 「おすすめ絵本」が絵本を選ぶ際に参考になる理由

参考になるか	選択肢	回答者の人数
	理由	
とても参考になる	「おすすめ絵本」があることで、絵本を選びやすくなった	8
	「おすすめ絵本」の文章や絵を見て、「子どもと一緒に読みたい」と思った絵本を、実際に読んでいる	5
	子どもが「おすすめ絵本」の絵を見て、「読みたい」と言った絵本を、実際に読んでいる	0
まあまあ参考になる	「こんな絵本もある」ということがわかる	4
	「おすすめ絵本」の中にたまには興味をひく絵本もある	0

「おすすめ絵本」として絵本が紹介されることによって、保護者が絵本を安心して選ぶことができるようになったことがうかがえる。また、「おすすめ絵本」を読んで興味を持った絵本を子どもと一緒に読んでいる保護者がいることがわかる。さらに、「おすすめ絵本」が保護者がそれまで知らなかった絵本を知る契機となっていることが読み取れる。

## ②「おすすめ絵本」についての意見

最後に、「iii. 「おすすめ絵本」についてご意見があればお聞かせください。」という項目を設けたところ、保護者から複数の意見が寄せられた。保護者による記述を分類し、表6にまとめる。

表6 「おすすめ絵本」についての意見

分類	保護者による記述
肯定的な評価	絵でわかりやすい。子どもも気にしてくれて、読んでほしいと毎回アピールします 紹介していただくことで、本屋さんなどに行ったときも目にとまるようになり、選ぶ絵本の幅が広がります 選ぶ絵本の参考になるので楽しみにしています 引き続き絵本の紹介をお願いします 子どもが絵本が大好きなので今後参考にしたいです
要望	何歳向けの絵本かなどがわかれば選びやすい 月齢毎におすすめがあるといいと思います 同じ作者の作品の紹介もあるとありがたいです

「わかりやすい」「選ぶ絵本の幅が広がります」「選ぶ絵本の参考になる」など、肯定的な評価が得られた。一方で、対象年齢・月齢などについて要望があった。これらを「絵本紹介」の構成要素に加えるかについては、今後検討することにする。

今回、「絵本紹介」の試みを行うにあたって、絵本について基本的なことを学んだ上で子ども図書室でできるだけ多くの絵本を丁寧に読み「絵本紹介」を作成するという手順で実践すること、グループで一連の作業に取り組むこと、「絵本紹介」を a. 題名, b. 作者, c. 出版社, d. 出版年, e. 絵本のサイズ, f. あらすじ, g. おすすめの理由, h. 印象に残った場面の絵の8つの要素で構成すること、および、甲南子育てひろばの利用者に「絵本紹介」の読者になっていただくことを考えた。このように「絵本紹介」の試みを独自のあり方で実施したことによって、学生は絵本について理解を進めつつ、絵本を選び、絵本の内容を自分たちの言葉と絵で「絵本紹介」の読者のために表現することができるようになったのではないだろうか。これらの学生の学び、および「絵本紹介」の試みの効果は、甲南子育てひろばを利用する保護者による「絵本紹介」の試みへの評価によって裏付けられたといえる。「絵本紹介」の試みの意義は、学生が保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になったときに絵本を活用するための基盤を築きうることにあり、一方で、「絵本紹介」の提供を通して甲南子育てひろばにおいて絵本を楽しむ子どもや保護者のために役立とうとすることにあると現時点では考えられる。



## 4. 考 察

### (1) 現時点での成果

「絵本紹介」の試みの現時点での成果として、以下の3つが考えられる。

#### ①絵本について理解を深める

学生は、紹介する絵本を選択するために、題名、作者、出版社、出版年において幅広い絵本を読み、かつ1冊1冊の絵本を細かいところまで丁寧に読んで、多様な絵本を知り、絵本を詳しく知ることになった。とりわけ紹介することに決めた絵本については、物語だけでなく、言葉のリズム、絵の描き方や画材や色遣い、ほかの絵本との関係に言及するくらいに理解するに至った。学生の大半が、絵本について理解を深めるという今回の目的を達成することができたと考えられる。

#### ②絵本の内容を自分たちの言葉と絵で他人にわかるように表現する力を身に付ける

学生は、とりわけ文字や文章、絵、あるいは絵本の魅力を伝えること、読者が読むことに気を付けて、「絵本紹介」を作成した。絵本の内容や雰囲気や魅力を「絵本紹介」の読者が具体的にイメージし、共有することができるように表現することができていたため、「絵本紹介」は甲南子育てひろばの利用者が絵本を選ぶ際に参考になったといえよう。ほとんどの学生が、絵本の内容を自分たちの言葉と絵で他人にわかるように表現する力を身に付けたと考えられる。

#### ③絵本の主な読み手である子どもを意識して絵本を選ぶ力を身に付ける

学生は、子どもが言葉の心地よいリズムや響きの面白さ、また、生き生きと描かれた絵や色を楽しむ絵のある絵本を好み喜ぶことを意識して絵本を選んでいった。そのほか、子どもが読む具体的な場面や親子で共有する様子を想像して絵本を選んだ学生もいた。多くの学生が、絵本の主な読み手である子どもを意識して絵本を選ぶ力を身に付けたと考えられる。

### (2) 今後の課題

今回、学生が「絵本紹介」において紹介した絵本15冊のうち13冊は、物語の絵本であった。すなわち、1つの種類に大きく偏ったことになる。さまざまな種類の絵本に興味を持ち、さまざまな種類の絵本について「絵本紹介」を作成するように学生を導くことが、今後の課題の1つであろう。この問題を解決することは、甲南子育てひろばの利用者によりよい「絵本紹介」を提供することにも繋がると考えられる。とはいえ、今回は履修者数が16名、完成した「絵本紹介」の数が15であったことから、一般化することは難しい。事例を積み重ねてさらに「絵本紹介」の意義を検討することが、今後の主な課題である。

また、今回は、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す学生が絵本について理解を深めるという目的を達成するために「絵本紹介」を手段としたが、ほかにも方法は考えられる。例えば、筆者は、2年生対象の必修科目「総合子ども学基礎演習ⅡA」において、同じ目的を達成するために絵本制作を手段としている。絵本制作から得られると現時点で考えられる成果は、学生の大半が、作者の立場から絵本について理解を深めることができたこと、および発想し構想する力と創造的に表現する力を身に付けたことである。その成果と「絵本紹介」の成果を比較検討することも、今後の課題である。

### 謝辞

「絵本紹介」の試み、およびアンケートの実施にあたり、甲南子育てひろばにご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

### 注

- 1 近年では、古川洋子・山田禮子の「保育者、教員養成校における「読み聞かせ」に関する一考察 「保育内容表現・言葉」に着目して」（『愛知学泉大学・短期大学紀要』第53号、愛知学泉大学、2018、pp.51-59）、菊川恵三の「幼稚園と小学校をつなぐ絵本選びと読み聞かせ——「保育内容・言葉」の授業から——」（『学芸』第64号、和歌山大学学芸学会、2018、pp.195-199）などが挙げられる。

- 2 近年では、鈴木律子の「保育者養成校の学生の絵本制作とその活用における一考察」(『浦和論叢』第59号, 浦和大学・浦和大学短期大学部, 2018, pp.51-68), 山根望・伊地知活彦・津田恵子の「保育者養成における絵本制作の意義——絵本の共同制作と実習での自作絵本の読み聞かせ——」(『山口芸術短期大学研究紀要』第50巻, 山口芸術短期大学, 2018, pp.147-165)などが挙げられる。
- 3 近年では、伊勢明子・吉村真理子の「保育者にとっての絵本体験の重要性～保育者の資質を高める絵本ノートの活用について～」(『千葉敬愛短期大学紀要』第39号, 千葉敬愛短期大学, 2017, pp.449-455), 鈴木正和の「絵本を100冊読み、ノートを作成する意味に関する考察」(『山陽学園短期大学紀要』第43巻, 山陽学園短期大学, 2012, pp.16-32)などが挙げられる。
- 4 近年では、三好伸子の「『さっちゃんのまほうのて』を学生同士が読み合う効果——保育者養成校のレポート記述の分析——」(『絵本学 絵本学会研究紀要』第20号, 絵本学会, 2018, pp.23-31)などが挙げられる。
- 5 皆川晶「『絵本ノート』作成における一考察——保育科学生における絵本100冊読みへの挑戦, そして成果と課題——」(『近畿大学九州短期大学研究紀要』第47号, 近畿大学九州短期大学, 2017, pp.85-100)。
- 6 甲南子育てひろばは、神戸市と連携した地域子育て支援拠点事業の一環として開設されているものであり、0歳から3歳までの子ども、およびその保護者を対象としている。神戸市内の子育て支援施設において有数の絵本所蔵数約1,800冊を誇る。
- 7 絵本の種類については、川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著の『ことばと表現力を育む児童文化』(第2版, 萌文書林, 2018)を参考にした。